

令和6年度 学校運営等に関する評価書

学校名	和歌山市立 小倉小学校
作成日	令和 7年 2月 28日

1 教育目標

『豊かな心情を持ち、よく考え、健康で決まりある行動のできる子を育てる』			
・豊かな心を持ち、みんなと仲よくする子	・進んで学び、よく考える子	・心身ともに健康で、生き生きした子	

2 学校自己評価についてのご意見

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	・自学自習の力をつけ、学習内容の習熟度を全国平均に近づける。 ・児童主体のわかる授業が実践できた。 (児童・教師90%)	・学校が楽しいと感じる。(児童90%) ・いじめの解消率を100%にする。	・積極的に運動を行える環境を整え、実践する。(教師90%) ・食育を推進し、給食の残食が一日1kg未満になるようにする。	・学校の情報発信についての保護者評価(90%) ・近隣の諸学校と連携した取り組みを実践できた。(教師80%)
意 見 する 重点 目標 対	通常の授業や、スキルアップ、放課後学習などを通して、子どもたちが真面目に努力していることは感じられる。さらに成果が実感できる工夫も必要である。	あいさつをはじめとする基本的生活習慣の充実が、学校生活の充実にもつながる。	体力づくりも大切である。積極的に運動できる子どもに育ててほしい。	ホームページの更新をほぼ毎日心がけるなど、積極的な情報発信を行っていたので、子供たちの様子がわかりやすかった。
意 見 する 取 組 状 況 対 する	学力向上のための学校の取り組みは、今後も続けていってほしい。	あいさつ運動やあいさつポスターの制作に取り組むことは効果的である。障がい者との交流を通じて、理解を深めていければと思う。	運動のための環境整備、食育、保健指導は適切に取り組めている。	登下校の見守りから学習活動まで、できる範囲で保護者や地域のみなさんと交流を深めることができた。活動を通して、子どもたちの心の育成にもつなげることができた。
意 見 する 取 組 結 果 適 切 対 する	子どもたちの真面目な取り組みが活かされる学習方法についても検討していく必要がある。	登下校時の見守りで、子どもたちの自発的なあいさつができるようになってきている。児童会のあいさつ運動、民生委員児童委員とのあいさつ運動など取り組むことができている。	学校ボランティアを活用し、ソフトバレーボール遊びや弓矢体験など、遊びを通して身体づくりを行うことができていた。	小倉祭りに全校児童で参加するなど、積極的なかかわりがあってよかった。今後も地域とのかかわりを増やしてほしい。
意 見 する 改 善 方 法 対 する	図書ボランティア、学習ボランティアを確保し、学校・家庭・地域が連携して、学力向上に向けた取り組みが必要。	今後も、あいさつ運動を継続し、コミュニケーション能力を育成し、教員はもとより、地元の方に見守られながら、地域とともに生きる子供の育成を願う。	今後、子供たちが楽しみながら学べる機会を増やしてほしい。また県立和歌山高等学校との連携を深め、部活動体験や読み聞かせの交流、合同避難訓練などできるとよい。	学校ボランティアの方々や地域の方との結びつきをさらに深め、小倉の歴史など各学年で学ぶ内容を検討してほしい。

3 その他のご意見